

# AEDの使用手順



① AEDを傷病者の頭の近くに置き、本体のふたを開けます。

② 電源ボタンを押します。

※ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。  
以降は音声メッセージに従って操作します。



③ 電極パッドを体に貼ります。  
電極パッドに書かれているイラストの位置にしっかりと肌に密着させて貼り付けます。この間も胸骨圧迫を続けます。

## ポイント

### 【貼り付け時の注意点】

- ・傷病者の胸が濡れている → 「パッドを貼る部位とその周囲の水分をタオルなどで拭き取る」
- ・胸に貼り薬がある → 「はがして肌に残った薬剤は拭き取る」
- ・ペースメーカーなどの埋め込みがある → 「避けて貼る」
- ・下着が邪魔をするとき → 「下着をずらして正しい位置に貼る」

※機種によっては、電極パッドから延びているケーブルの差込み（コネクター）をAED本体の差込み口に挿入する必要があります。



④ AEDの指示に従い「ショックが必要です」と判断されたら「ショックします。みなさん離れて」と注意を促します。誰も傷病者に触れていないことを確認し、ショックボタン（点滅）を押します。（ショックボタンを押さなくても自動的に電気ショックが行われる機種もあります。）

電気ショックが完了すると「直ちに胸骨圧迫を開始して下さい」などの音声メッセージが流れますので、これに従って直ちに胸骨圧迫を再開します。「ショックは不要です」のメッセージが流れた場合も同様です。

## ポイント

胸骨圧迫の中断時間はできるだけ短くすることが大切です。

2分間おきにAEDは自動的に解析を行います。  
以後は、救急隊が到着するまで心肺蘇生を継続しAEDの指示に従ってください。



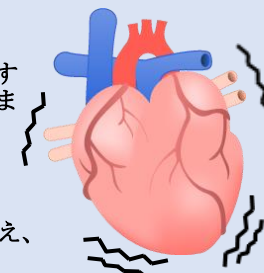
## 【AED取扱い時の注意点】

- ☆AEDは全年齢に使用できます。
- ☆未就学児（およそ6歳まで）には未就学児用の電極パッドを使用するか未就学児用モードに切り替えて使用しましょう。（未就学児用がなければ小学生～大人用の電極パッドで代用します）



## 心室細動 とは

心臓が不規則にブルブルとふるえ、全身に血液を送り出すというポンプの役割を心臓が果たせない状態で、そのまま放置すると死に至ります。



## AED（自動体外式除細動器）とは

心室細動の時にできるだけ早く心臓に電気ショックを与え、心臓のふるえを取り除く機器です。  
自動的に心電図を解析して電気ショックが必要かどうかを判断し、音声メッセージで必要な対応を指示してくれます。

## 救命の連鎖



「救命の連鎖」は【心停止の予防】【心停止の早期認識と通報】【一次救命処置（心肺蘇生とAED）】【二次救命処置と心拍再開後の集中治療】の4つの輪で成り立っており、この4つの輪が途切れることなく素早くつながる事で救命効果が高まります。  
特に最初の3つの輪は、その場に居合わせた人が積極的に行うことで、救命率や社会復帰率が高まります。

## 通信指令員による口頭指導

口頭指導とは、救命率の向上を目的として、救急隊が到着するまでの間、119番通報時に通信指令員が通報者やその場に居合わせた人（住民）に電話を通じて適切な応急手当を依頼し、口頭で指導することをいいます。

通信指令員から電話を通じて、応急手当の口頭指導があった場合は、その指導に従って、可能な限り応急手当を行ってください。また、両手を使って応急手当が行えるよう、電話のスピーカー機能を活用しましょう。

鯖江・丹生消防組合 消防本部・消防署

TEL (0778) 54-0119

ホームページ <http://www.fd-sabaenyu.jp/>

（ホームページで、この資料を閲覧できます）

消防署では普通救命定期講習を毎月第2土曜日に実施しています。



# 心 肺 蘇 生 法

(成人も小児も同じ手順で行います。)

## ① 安全の確認

誰かが突然倒れるところを目撃したり、倒れているところを発見した場合は、まず**周囲の状況が安全かどうかを確認**します。**自分自身の安全を確保**することは傷病者を助けることよりも優先されます。



## ② 反応の確認

まずは、耳もとで「〇〇さん、大丈夫ですか？」と声をかけながら肩を軽くたたきます。**呼びかけに反応がなければ「反応なし」と判断**します。反応があれば傷病者の訴えを聞き、必要な応急手当をしましょう。

### ポイント

※突然の心停止が起こった直後には引きつるような動き(けいれん)が起こることもあります。この場合は呼びかけに反応しているわけではないので、「反応なし」と判断してください。また、反応があるかないかの判断に迷う場合、分からない場合も**119番通報とAEDの要請**を行きましょう。



## ③ 応援を呼ぶ(119番通報・AED依頼)

②で反応がなければ、大きな声で助けを求めます。協力者が来たら、「あなたは**119番へ通報してください**」「あなたは**AEDを持ってきてください**」と依頼します。

### ポイント

協力者が誰もいなく1人の場合は、次に移る前に、自分で**119番通報**をしましょう。また、すぐ近くに**AED**があることがわかっていれば、自分自身で**AED**を取りに行ってください。



## ④ 呼吸の確認

傷病者のそばに座り、**10秒以内**で傷病者の胸や腹部の上がり下がりを見て、**普段どおりの呼吸**をしているか**判断**します。

### ポイント

次のいずれかの場合は「**普段どおりの呼吸がない**」と判断し⑤に進みます。

- ・胸や腹部の動きがない場合
- ・約10秒間確認しても呼吸の状態がよくわからない場合
- ・しゃくりあげるような、途切れ途切れに起きる呼吸(**死戦期呼吸**)をしている場合

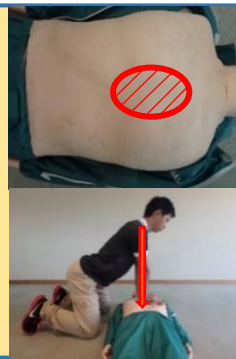


## ⑤ 胸骨圧迫

胸の真ん中(**胸骨の下半分**)に重ねた手の付け根部分を置きます。肘をまっすぐに伸ばし、体重をかけ、**約5cm沈み込むようにしっかり圧迫**します。

### ポイント

1分間に**100回~120回**のテンポで**連続して絶え間なく圧迫**します。圧迫の強さが足りないと十分な効果が得られないので、しっかりと圧迫することが重要です。また、圧迫と圧迫の間(圧迫を緩める時)は十分に力を抜き、**胸が元の高さに戻るように**しましょう。



## ⑥ 人工呼吸

※出血や嘔吐物がある場合には人工呼吸は省略しても結構です。

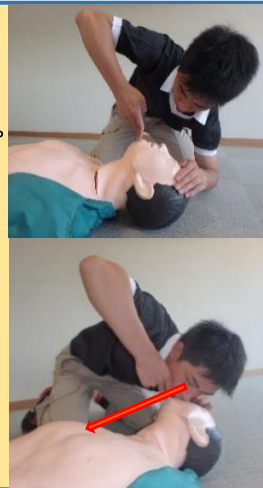
30回の胸骨圧迫に続いて、**口対口人工呼吸**により息を吹き込みます。

気道確保(頭部後屈あご先挙上法)

片手を傷病者の額に当て、もう一方の手の人差し指と中指の2本をあご先に当てて、頭を後ろにのけぞらせ、あご先を上げます。

人工呼吸

気道を確保したまま、額に当てた手の親指と人差し指で傷病者の**鼻をつまみ**傷病者の口を覆い**約1秒間かけて吹きこみます**。傷病者の胸が上がるのを見て確認します。胸がうまく上がらない場合でも吹きこみは2回までとし、すぐに胸骨圧迫に進みます。人工呼吸による胸骨圧迫の中断時間は出来るだけ短くしましょう。



## ⑦ 心肺蘇生の継続

**胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせ**を救急隊に引き継ぐまで絶え間なく続けます。(人工呼吸ができない場合には胸骨圧迫のみを行います。)普段どおりの呼吸や呼びかけに反応し、目的のある仕草が出てきた場合は一旦中断しますが、**判断に迷う場合は継続**してください。

### ポイント

もし救助者が2人以上いて、交代可能な場合には、疲労により胸骨圧迫の質が低下しないよう、1~2分間程度を目安に交代するのがよいでしょう。



## 【傷病者が子供の場合】

乳児とは**12ヶ月未満**をいい、小児は**1歳以上**でおよそ**16歳未満**をいいます。

※傷病者が小児の場合は両手でも片手でもかまいません。圧迫の深さは胸の厚さの約**1/3沈む程度**です。乳児の場合は両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とした胸骨下半分を指2本で圧迫します。

